

2011.03.11 東日本大震災

遠野市の 沿岸被災地後方支援

～「縁」が結ぶ復興への『絆』～



平成24年10月18日

岩手県遠野市

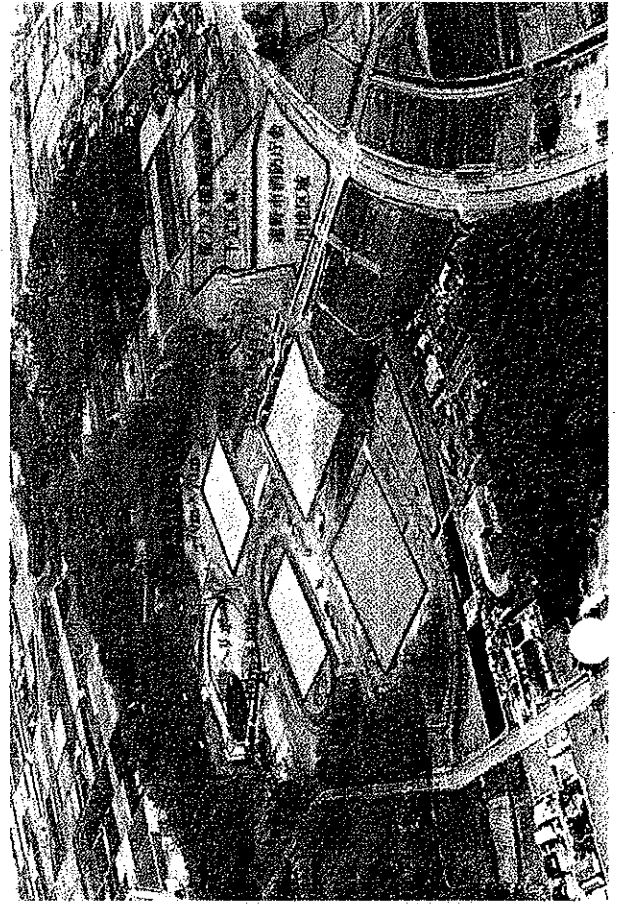
構想から実践へ

～生かされた2度の訓練～

内陸だからこそその役割 ～三陸地域の地震・津波災害に備えて～



内陸と沿岸の中間地点に位置する遠野市は、内陸にも沿岸にも通じる道路網が整備された結節点となっている。遠野市を中心とした半径50kmの円内に、沿岸の宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、さらに内陸部の盛岡市や奥州市までを包括しており、ヘリコプターで約15分、陸路で約1時間の時間距離となっている。また、遠野市の地質は花こう岩で安定しており、活断層がない災害に強い地域とされていた。

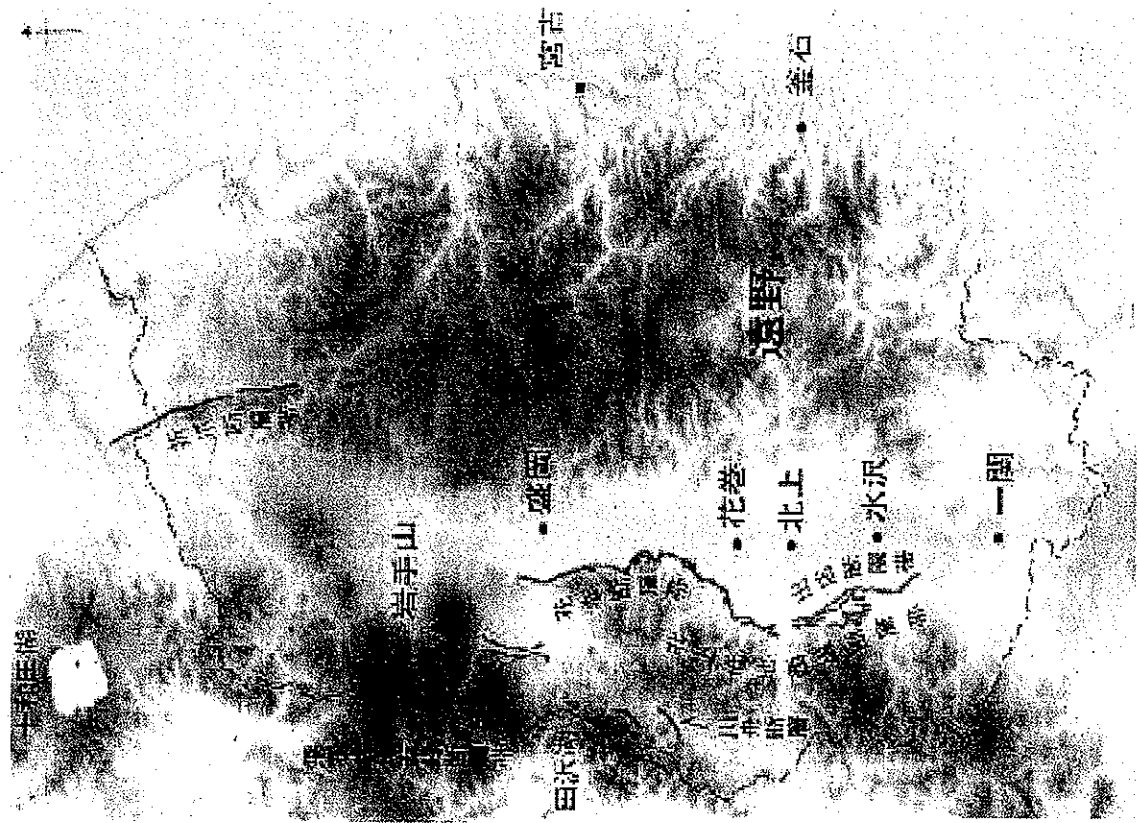
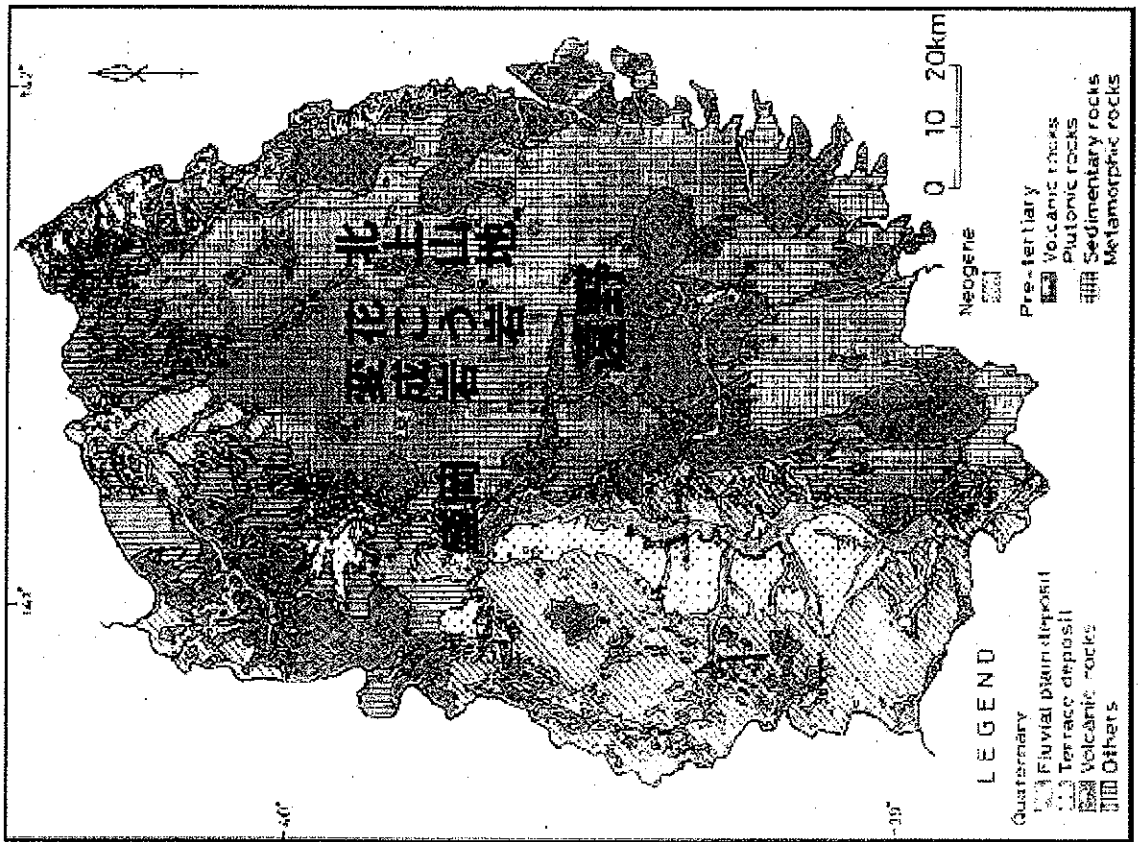


沿岸で津波被害が発生した場合、支援部隊等を受け入れ集結させ、各方面に展開すること（上図）、既存の遠野運動公園を臨時ヘリポート、野営地や駐車場として活用が可能なこと（右写真）を示している。

このことを受け、遠野市では、津波が来ない内陸だからこそその役割を担うことを考え、後方支援体制整備の具現化に向け準備を始めた。

構想から実践へ

～生かされた2度の訓練～

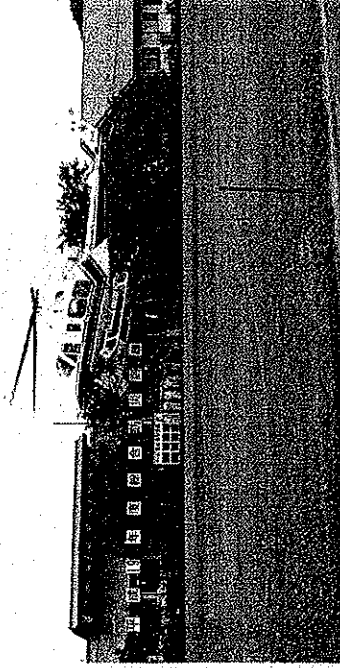


構想から実践へ ～生かされた2度の訓練～

構想への理解と協力を ～平成19年度岩手県総合防災訓練～

平成19年9月2日、平成19年度岩手県総合防災訓練の実施が輪番制で巡ってきた。

通常、開催自治体が地震等により甚大な被害を受けたことを想定して実施される訓練だが、これまでの資料収集と構想の骨格部分の検証材料にすることを目的に、今までの訓練と考え方を交え、沿岸部への医療救護訓練と救援物資輸送訓練を併せて実施することにした。県内87機関、人員8,746人の参加、協力により、後方支援の有効性と遠野市の優位性の検証がなされた。



つながろう、備えよう ～平成19年11月、三陸地域地震災害後方支援拠点施設整備推進協議会設立～



平成19年11月、ついに三陸地域地震災害後方支援拠点整備推進協議会設立会議を開催した。

9月に開催された岩手県総合防災訓練で得た検証データを今までの構想に加えることにより、より実践的で実働力のある構想を作成し、津波が来ない内陸が担うべき役割と内陸と沿岸部の結節点でもある遠野が担うべき役割、そして、歴史的にも文化的にも深いつながりを持ち続けてきた九つの市町村が連携することの重要性を訴え、近隣市町村の理解と協力のもと設立することが出来た。

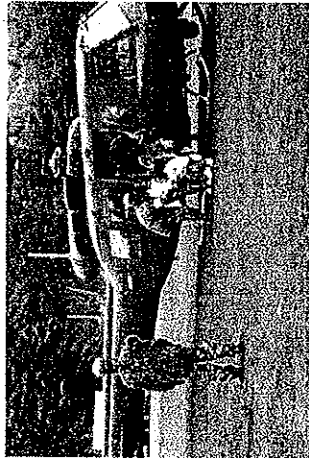
構想から実践へ

～生かされた2度の訓練～

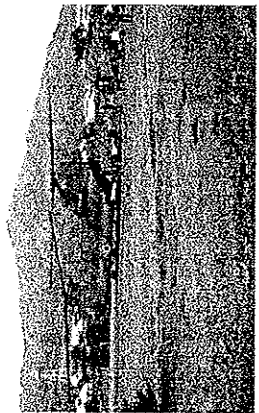
本田さん、本気か ～東北方面隊震災対処訓練（みちのくALERT2008）～



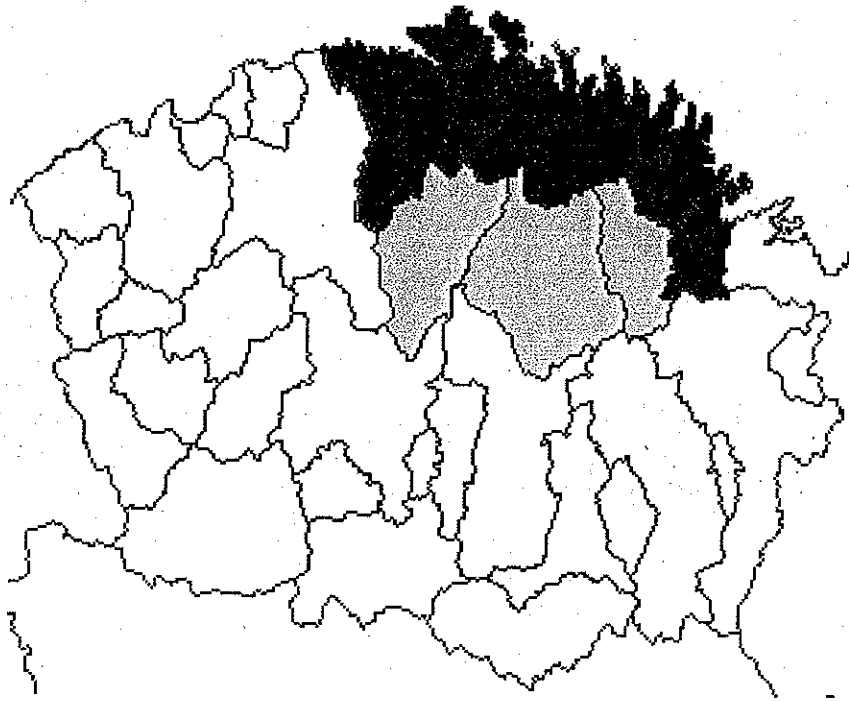
運動公園に集結する自衛隊車輛（遠野市）



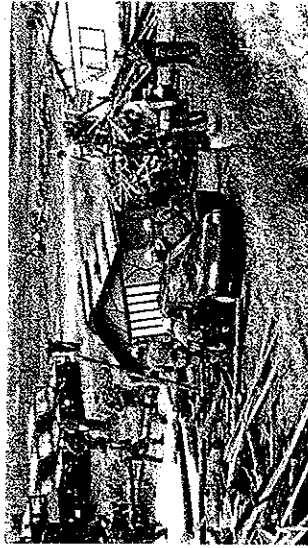
ヘリコプターによる人命救助訓練（大槌町）



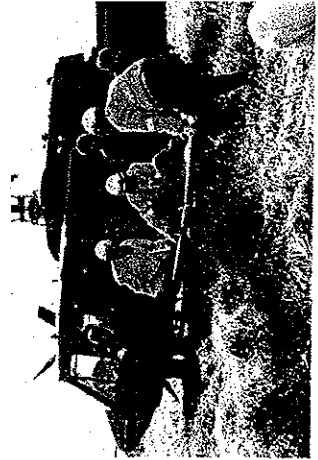
消防緊急災害援助隊を乗せ釜石市に向かう（遠野市）



津波被害を想定した人命捜索訓練（宮古市）

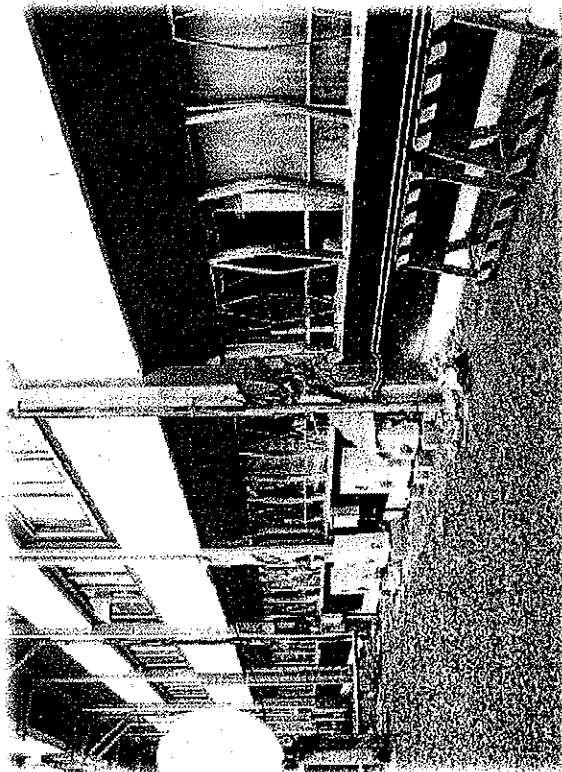


自衛隊・消防隊・警察隊合同での人命救助訓練（大船渡市）

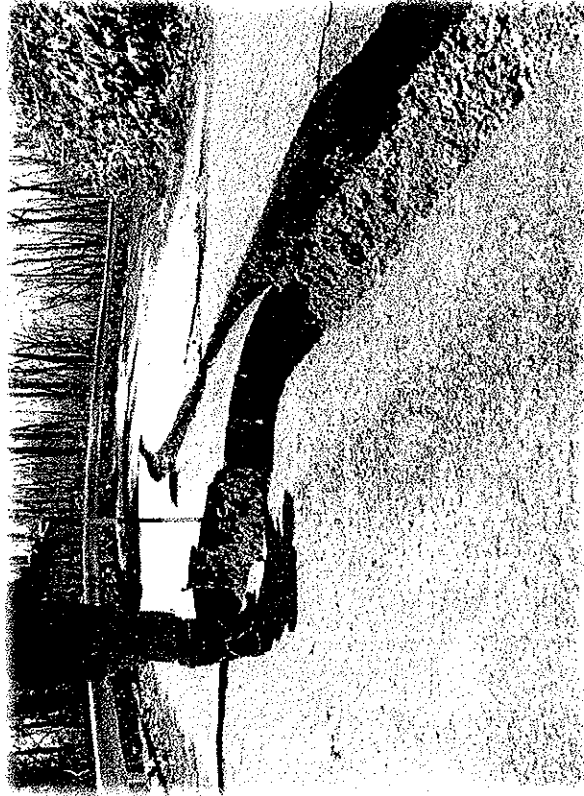


自衛隊・救急隊・医療隊合同での救急搬送訓練（陸前高田市）

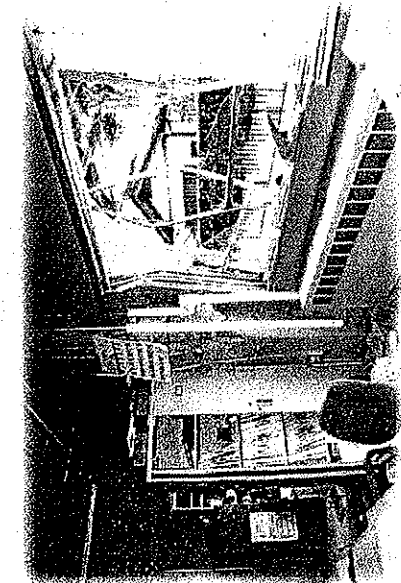
遠野市の被害



倒壊の危険性が高まる市役所本庁舎中央館南側の様子



道路中央に大きな亀裂が入った耳切牧野線



窓枠がつぶれ、ガラスが散乱した税務課事務室



本庁舎中央館南側の柱が大きく破損

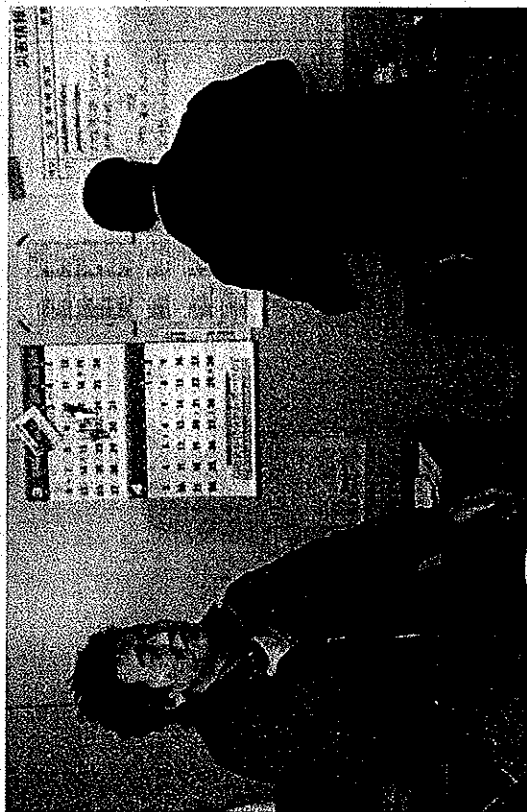
被害総額

32億円

深夜の SOS

～後方支援活動の始まり～

午前1時40分、一人の男性の悲痛な叫び～被災地からの救助を求めめる声～



「大槌高校に500人が避難している。水も食料も全くない。何とか手を貸して欲しい。」

地震発災からおよそ11時間後の12日午前1時40分、遠野市災害対策本部に一人の男性が飛び込んできた。男性は、通信手段が途絶えた中で何とか助けを求めようとして、大槌町から二つの峠を越えて遠野市にたどり着いた。

歴史的なつながりの深い隣町の窮状を見捨てる訳にはいかない。遠野市はすぐさま物資を調達し、同日午前4時50分、消防職員が現地に向かった…

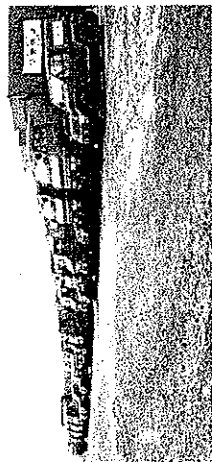
職員の報告は「言葉になりません…」の一言～凄惨な状況と後方支援活動の本格化～



心をひとつに

～後方支援活動の展開～

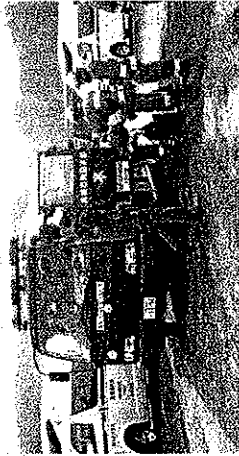
全国の力を遠野へ。そして、沿岸へ～支援隊の集結と展開～



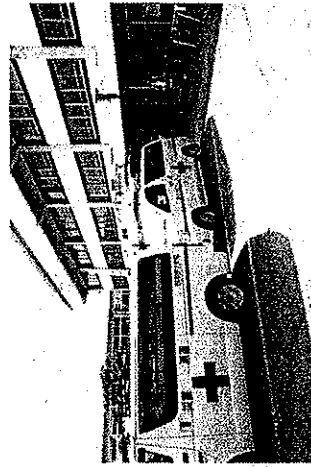
続々と集結する自衛隊車輛



ヘリコプターから次々と運ばれる物資



いち早く駆け付けた緊急消防援助隊大匠府隊



全国からの医療隊も集結

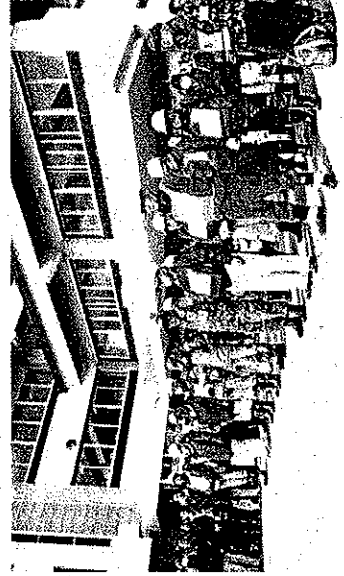
私達にも出来ることを～遠野市民一丸となって取り組んだ支援活動～



遠野市民による心を込めた炊出し



地元高校生も積極的に物資の仕分けに関わる



現地のボランティア作業に向かう遠野市民

心をひとつに

～後方支援活動の展開～

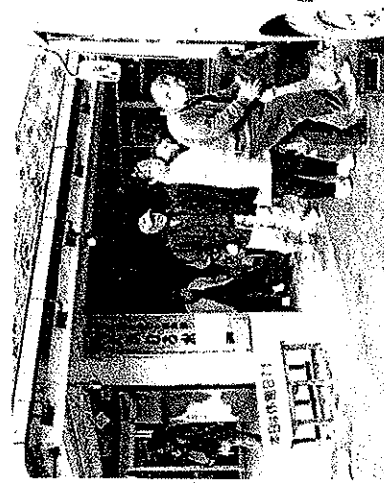
みんなの笑顔が見たいから～きめ細やかな支援の実施～



遠野市内への避難者へ支援物資を配布



地元CATVにより市民へ情報提供



避難所で暮らす方々へ入浴機会を提供

市民のために 沿岸市町のために ～遠野市職員の取り組み～



情報の把握と共有のために紙を張り出した

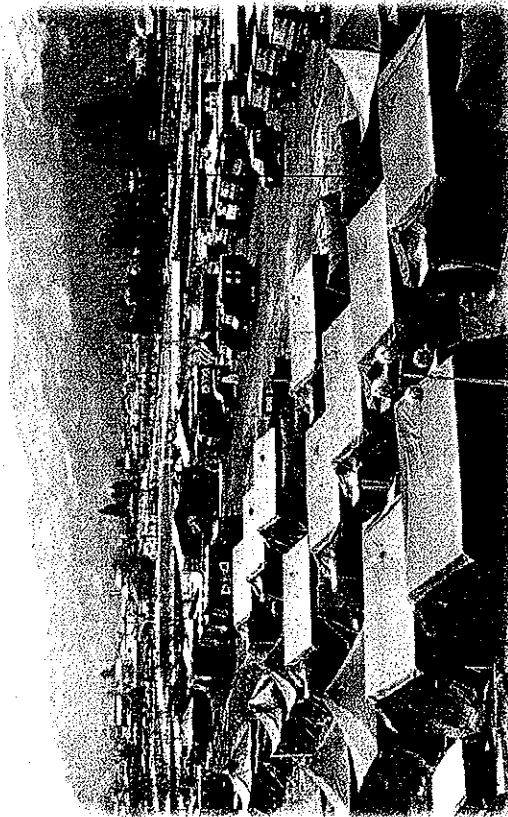


職員集会は毎日朝・夕の2回行った

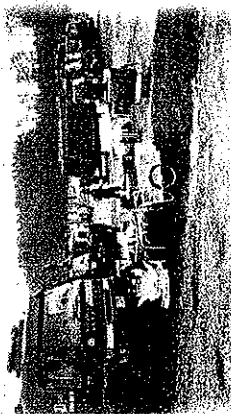


本部では昼夜を問わず情報収集にあたった

後方支援拠点としての遠野



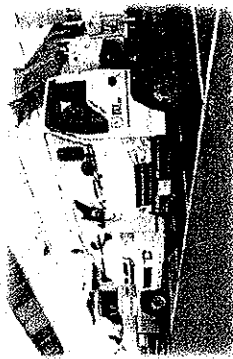
地震発生後、間もなく遠野運動公園に集結した自衛隊



人命救助のため駆け付けた
緊急消防援助隊大阪府隊



被災地へ向かうボランティア



各種業者が市内に拠点を置き、
復旧活動にあたった



市災害対策本部に駆け付けた
沖縄県医師会医療チーム

初動期に集結した各種組織の人数

※平成23年3月20日 現在

3,500人

後方支援拠点としての遠野

全国の自治体からの救援物資提供

全国 44 市町村



遠野市に寄せられた支援金、寄付金(平成24年8月末現在)

1億6,021万5,976 円

主な救援物資の受入状況

6,400 袋
米(1袋10kg換算)

12万8千 本
水・飲料(2ℓ)

17万8千 枚
衣類・寝具等

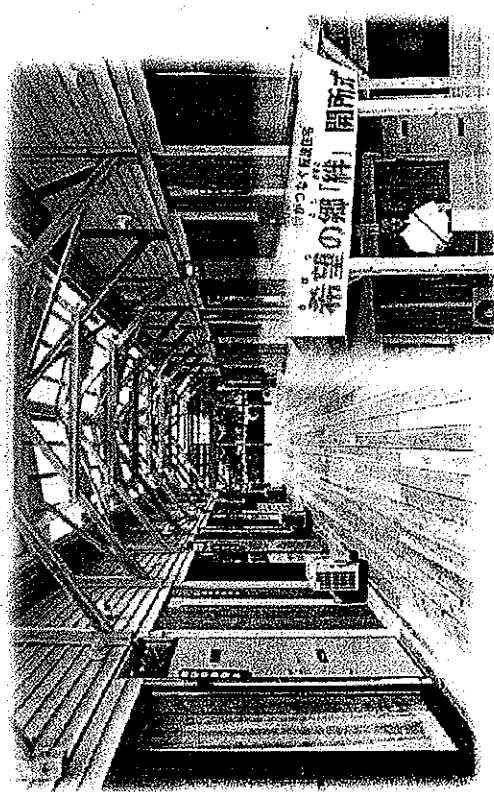
16万6千 箱
食料

稲荷下物資センターの状況(平成23年6月末閉鎖)

仕分け作業等従事者数 延べ 3,784人

直接搬出利用世帯数 延べ 20,355世帯

後方支援拠点としての遠野



平成23年7月16日開所

『縁がなくなぐ仮設住宅希望の郷「絆」』入居状況
(平成24年8月末現在)

入居戸数 37戸

入居者数 65人

遠野市内への避難者数

(平成24年8月末現在)

個人住宅避難

約 52 世帯 104 名

民間賃貸住宅入居

45 世帯 112 名

雇用促進住宅入居

39 世帯 92 名

仮設住宅入居

37 世帯 65 名

合計 約 173 世帯 373 名

知恵と力を

～遠野市後方支援連携会議～

市役所西館庁舎に拠点を置く機関・団体等 (平成23年7月～平成24年3月)

- 岩手県 … 県復興局に遠野市担当専任職員を配置
- 静岡県 … 3/26から遠野市に現地支援調整本部を設置
- 関西広域連合 … 5/9から遠野市に現地支援本部遠野事務所を設置
- 東京都 … 5/16から遠野市に現地支援本部遠野事務所を設置
- 神奈川県 … 7/24から遠野市に神奈川ボランティアセンターを設置
- 大阪府堺市 … 7/21から大阪府現地支援本部遠野事務所に常駐
- 愛知県大府市 … 9/6から遠野市に職員1名を派遣 (3/31まで)
- 熊本県菊池市 … 11/1から遠野市に職員1名を派遣 (3/31まで)
- 東京大学 … 5/13から遠野市に救援・復興支援室遠野分室を設置
- 神奈川大学 … 4/29から遠野市に東北ボランティア駅伝現地調整本部を設置
- 立命館大学 … 10/12から遠野市救災復興支援室遠野分室を設置

独立行政法人 防災科学技術研究所 … 7/19から遠野市の災害記録の保存を開始

社団法人 青年海外協力協会 … 10/16からJOCAっぱハウス遠野を開所



縁がっなぐ後方支援プロジェクト

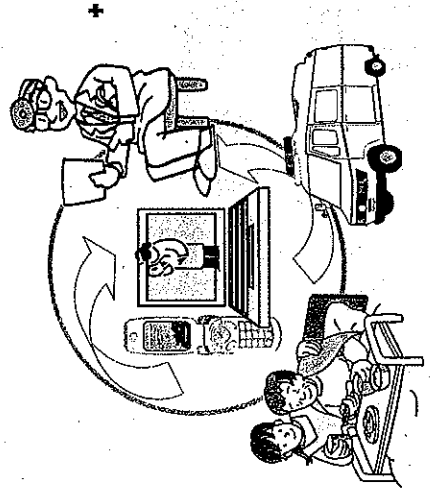
～6つのネットワーク～

～『医』・『職』・『住』による被災者の生活再建支援～

『医』命の線ネットワーク

- 助産院ねつと・ゆりかご推進事業(モバイル遠隔妊婦健診等)
- 地域ICT遠野型健康増進ネットワーク事業(ICT利活用による健康づくりと疾病予防活動)
- 市内医療機関の診療活動支援
- 被災者に係る健康診査事業の実施
- 妊婦救急搬送
- 健康相談の開設
- 歯科口腔衛生支援
- 新生児訪問
- 被災地の避難所巡回診療

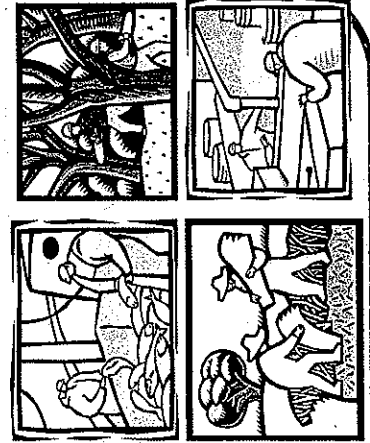
(9項目)



『職』暮らしの絆ネットワーク

- 雇用環境づくり応援事業(被災者を雇う事業者等への社会保険料等補助)
- 緊急雇用基金事業(地域づくりサポーター事業等)
- 職業訓練受講生の送迎業務
- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構(ポリテクセンター岩手)による職業訓練に使用する実習場の施設提供

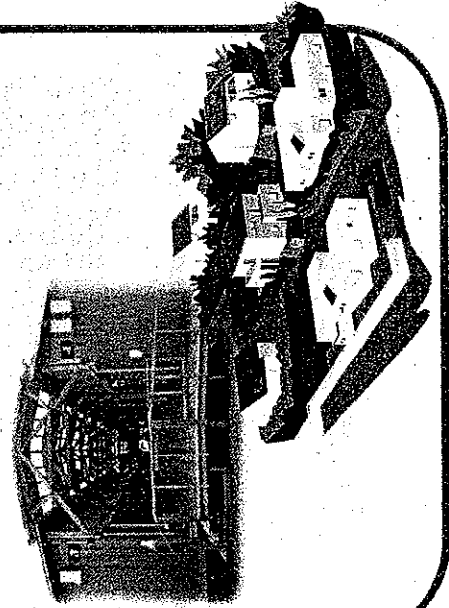
(4項目)



『住』住まいの絆ネットワーク

- 縁がっなぐ仮設住宅整備事業
- 希望の郷「絆」団地入居者支援(市社協・生活支援相談員の配置、介護、保健・福祉医療サービスの提供)
- 雇用促進住宅への入居受入れ

(3項目)



※平成24年1月時点で実施中又は実施済みのも

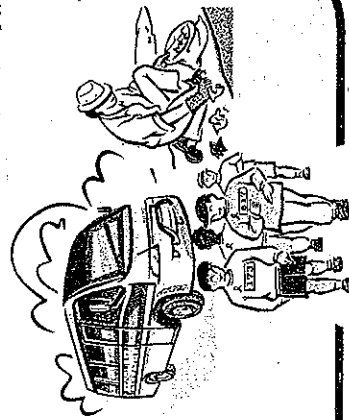
縁がっつなぐ後方支援プロジェクト ～6つのネットワーク～

～『絆』をつなぐ後方支援～

4 支援の絆ネットワーク

- 災害ボランティアセンターへの支援
- ボランティアコーディネーター育成事業
- ボランティアバス運行事業
- 市内避難者への各種支援
- 遠野市赤十字奉仕団による支援活動(炊き出し、救援募金等)
- 粉ミルク及び紙オムツ支給
- 個別相談対応(生活支援相談、児童家庭相談等)
- 傾聴ボランティア活動支援
- 被災児童の保育所受入れ
- 遠野じんぎずかんマラソン大会開催
- 映画「エクレールお菓子放浪記」上映
- 被災地スポーツ少年団への学校施設貸出し
- 被災自治体への救援活動車両の配備手配

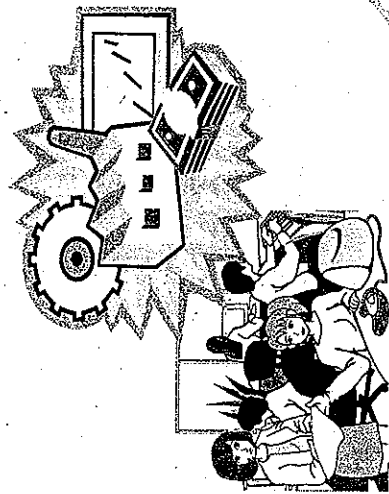
(13項目)



5 産業の絆ネットワーク

- 企業復興支援事業(被災企業への用地の無償貸出し)
- 沿岸企業応援事業(仮設事務所・仮設倉庫等借上支援事業)
- 「絆を縁に」ネットワーク推進事業(支援自治体等への観光施設利用共通券・どっぴこまつり招待券の配布)

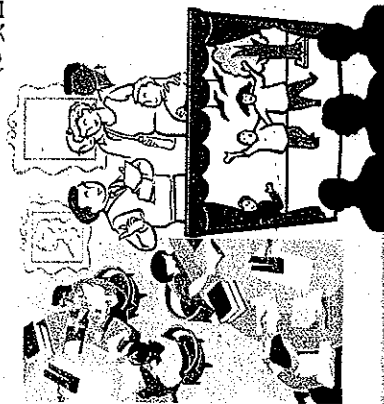
(3項目)



6 心の絆ネットワーク

- 三陸文化復興プロジェクト(献本活動、文化財レスキュー活動、シンポジウム・展覧会等の開催)
- 復興支援イベント推進事業(各種イベントへの被災者招待)
- 地域づくり推進事業
- 市民企画音楽会「音工房コンサート～ふるさとの旋律」開催
- 第22回遠野市少年少女合唱隊発表会開催

(5項目)



※平成24年1月時点で実施中又は実施済みのもの

本当に想定外だったのか？

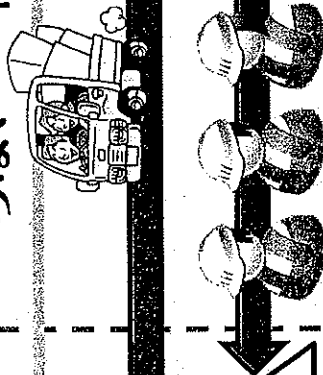
災害救助法の枠組み

国

県

被災市町村

庁舎が被災し
機能不全に...



支援
自治体

◆災害救助法の想定外

～タテ割の垂直関係の課題～

- ①被災市町村から「要請」を前提とした災害救助法
- ②国・県の情報が被災市町村に伝わらない → 情報無く不安感が増す

◆法と手続きを超えた対応～水平連携によるヨコのつながり～

- ①要請を待たずに、被災地支援に駆けつけた
- ②自ら情報収集と適切な支援行動を展開

首長判断で素早い
支援行動が展開

ヨコの連携を支える
責任・権限・財源を
踏まえた新しい仕組みづくり